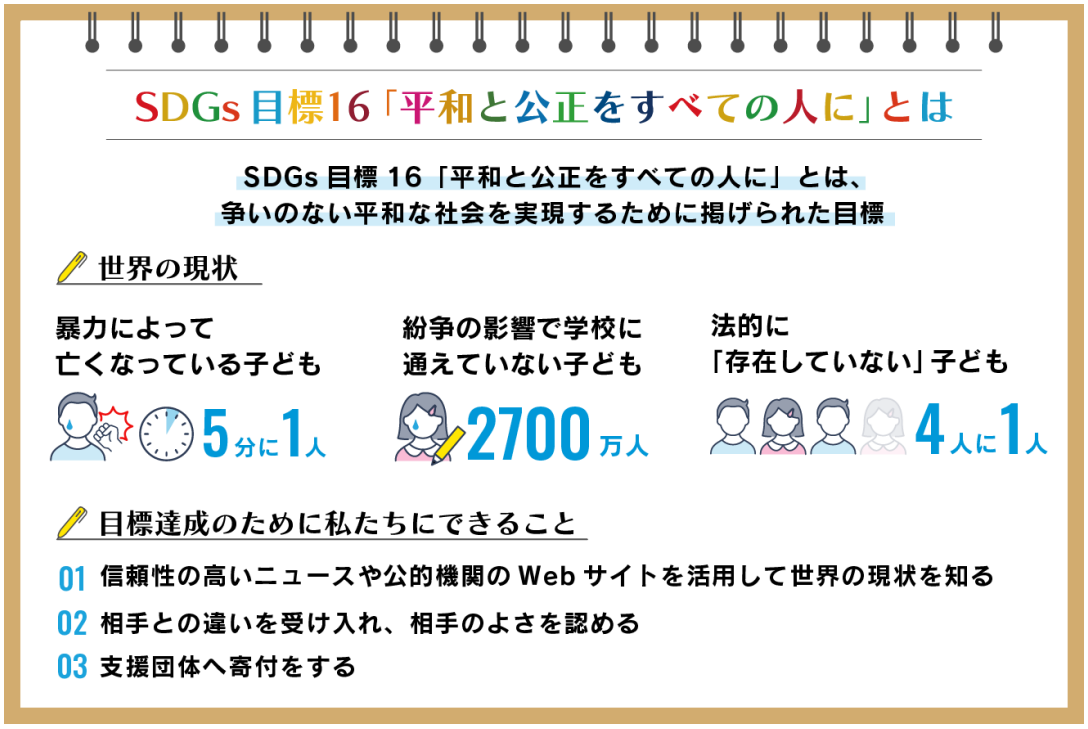
SDGs・続き　№010　　大塚　和光

戦争に関する言葉がよく聞かれるようになった昨今、SDGs 目標 16「平和と公正を全ての人に」に注目が集まっています。けれども「目標 16 とは」「世界や日本の取り組みは」と疑問に思う方も多いのではないでしょうか。

SDGs 目標 16「平和と公正をすべての人に」とは

SDGs 目標 16「平和と公正をすべての人に」とは争いのない平和な社会を実現するために掲げられた目標です。誰もが受け入れられ法律や制度で守られる未来を目指しています。また、あらゆる争いをなくすことも大きな課題です。



SDGs 目標 16「平和と公正をすべての人に」とは（デザイン：吉田咲雪）

SDGs 目標 16「平和と公正をすべての人に」の内容

　より具体的な内容を知るためにターゲットをみていきましょう。
ターゲットとは具体的な達成目標のことです。目標 16 には全部で 12 個あります。

16.1	あらゆる場所において、すべての形態の暴力及び暴力に関連する死亡率を大幅に減少させる。
16.2	子どもに対する虐待、搾取、取引及びあらゆる形態の暴力及び拷問を撲滅する。
16.3	国家及び国際的なレベルでの法の支配を促進し、すべての人々に司法への平等なアクセスを提供する。
16.4	2030 年までに、違法な資金及び武器の取引を大幅に減少させ、奪われた財産の回復及び返還を強化し、あらゆる形態の組織犯罪を根絶する。
16.5	あらゆる形態の汚職や贈賄を大幅に減少させる。
16.6	あらゆるレベルにおいて、有効で説明責任のある透明性の高い公共機関を発展させる。
16.7	あらゆるレベルにおいて、対応的、包摂的、参加型及び代表的な意思決定を確保する。
16.8	グローバル・ガバナンス機関への開発途上国の参加を拡大・強化する。
16.9	2030 年までに、すべての人々に出生登録を含む法的な身分証明を提供する。
16.10	国内法規及び国際協定に従い、情報への公共アクセスを確保し、基本的自由を保障する。
16.a	特に開発途上国において、暴力の防止とテロリズム・犯罪の撲滅に関するあらゆるレベルでの能力構築のため、国際協力などを通じて関連国家機関を強化する。
16.b	持続可能な開発のための非差別的な法規及び政策を推進し、実施する。

引用：我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ p.25-26｜外務省

目標 16 が掲げられた理由

日本で生活していると平和ではない状況をイメージしづらいかもしれません。　しかし、世界には「平和ではない状況」「公正ではない環境」が多く存在しています。

子どもへの暴力が後を絶たない

世界では「5 分に 1 人」子どもが暴力によって亡くなっています。

（参照：16.平和と公正をすべての人に｜日本ユニセフ協会 SDGs CLUB）

大人の身勝手な行動によって命が奪われることは絶対に許されません。弱い立場にいる子どもを守る社会が必要です。子どもへの暴力には紛争のほか家庭内での虐待もあげられます。虐待は各家庭の問題でもありますが社会全体の課題ともいえるでしょう。子どもを保護する制度や虐待に関する法律はもちろんですが、子育てに悩む親をサポートするしくみも求められています。

出生登録がされていない子どもが多く存在

ユニセフが 174 カ国のデータを分析し 2019 年に発行した報告書「2030 年までにすべての子どもに出生登録を：その進捗は？（原題：Birth Registration for Every Child by 2030：Are we on track?)」によると、5 歳未満の子どもの 4 人に 1 人が法的に「存在していない」と言われています（参照：同 p.16)。

日本で「教育」「医療」「公的サービス」などを当たり前のように受けられるのは、両親が「出生届」を出してくれたおかげです。一人ひとりが戸籍で守られているから安心・安全な生活が保証されています。

しかし、出生登録がなければ、以下のような問題が発生します。

- 予防接種が受けられない
- 学校に入学できない
- 犯罪に巻き込まれても裁判ができない
- 人身売買の被害にあって国外に連れ出された子どもが生まれた国に戻れなくなる

（出典：16.平和と公正をすべての人に｜日本ユニセフ協会 SDGs CLUB）

一つの手続きがないことによって、多くの子どもたちが不幸にあったり、命を奪われたりしています。

終わらない紛争と増える難民

現在もロシアによる軍事侵攻が続く中、ウクライナの状況は日々悪化しています。

ニュースを見るたびに心を痛めている方も多いのではないでしょうか。残念ながら、世界には紛争地が存在します。多くの人がシェルターで生活したり、国外に避難したりせざるを得ない状況です。そして最悪の場合、尊い命も失われてしまいます。
さらにユニセフ報告書「教育を奪われて（Education Uprooted）」（2017 年発行）によると、2015 年の段階で紛争の影響で 2700 万人の子どもが学校に通えていないと言われています。
（参照：同 p.7）
教育の機会がなくなると、一人ひとりの将来の可能性も奪われることになります。すべての人が毎日笑顔で生活できるように、あらゆる争いをなくさなければいけません。

目標 16 に対する世界・日本の取り組み

平和な社会を実現させるため世界や日本ではどのような取り組みをしているのでしょうか。

世界の取り組み

UNHCR
国連の難民支援機関である UNHCR（国連難民高等弁務官事務所・The Office of the United Nations High Commissioner for Refugees）では、故郷を奪われた人たちの命、生活、人権を守るために援助を続けています。世界約 135 カ国で活動し約 1 万 3000 人（2020 年末時点）の職員が働いています。
日本では国連 UNHCR 協会が窓口となり、「政府や企業」と「難民や UNHCR の職員」をつなぐ役割を担っています。現在はウクライナ緊急支援など、個人や法人に向けて寄付を呼びかけています。

フィンランド「ネウボラ」
「ネウボラ」とは、妊娠期から就学前までの間、担当の保健師が子どもやその家族を支援する制度です。無料でかかりつけの保健師から助言や支援を受けられる環境が整っています。専門家と親が信頼関係を築くことで虐待防止や早期発見が期待できます。家庭の所得に関係なく利用できるため、安心できる制度であるといえます。

ニュージーランド発の「エティーク」

目標 16 の達成に貢献する商品やサービスもあります。例えば、株式会社ピー・エス・インターナショナルが販売する固形シャンプーバー「エティーク」は児童労働の解決を目指しています。児童労働によって作られた原材料は一切使用していない、とアピールしています。公正な取引を明確にすることで、子どもを不当な労働から守ることが期待できます。

日本の取り組み

ウクライナへの支援

日本政府はロシアによるウクライナ侵攻を断じて許さない姿勢を示しました。それと同時にウクライナ国民への支援にも努めています。以下のものが挙げられます。

- 防弾チョッキやヘルメット、防寒服や非常食、医療用器材などの物資提供
- 2 億ドルの緊急人道支援
- ウクライナから日本への避難民の受け入れ（2022 年 4 月時点）

「多くの命を奪われる戦争を絶対に許さない」という姿勢を見せることも、平和な社会を実現させるために大切です。

オレンジリボン運動

オレンジリボン運動とは子どもの虐待ゼロを呼びかける市民運動です。一人でも多くの人に子どもの虐待の問題に関心を持ってもらうこと、虐待のない社会を築くことを目指しています。虐待から子どもを守る機関といえば児童相談所のイメージが強いでしょう。けれども、責任を 1 カ所に集めるのではなく社会全体で対応していくことが必要です。

実際にオレンジリボン運動の公式サイトを見ると、「子どもの虐待について」や「虐待を疑う子どもを見つけた場合の対応」など、役立つ情報を簡単に得られます。
個人や企業などのサポーターの数が増えることで「社会全体で子どもを育てる」という輪の拡大が期待できます。

Yahoo!ネット募金

Yahoo!ネット募金ではインターネットを通して募金に協力できます。クレジットカードは 100 円から、T ポイントは 1 ポイントから寄付可能です。ウクライナ支援や地震などの復興支援など様々なプロジェクトがあります。

また東日本大震災が発生した 3 月 11 日に「3.11」と検索すれば一人につき「10 円」が寄付される取り組みを実施しました。2022 年は、Yahoo!検索と LINE Search で「3.11」と検索した人は、合計で 1127 万 191 人でした。

（参照：3.11 これからもできること。｜Yahoo! JAPAN）

このように寄付しやすい環境は、募金へのハードルを下げたり、「寄付したいけど、勇気が出ない」という方の背中を押してくれたりしているといえます。

目標 16 達成のために私たちにできること

目標達成を目指して世界や日本でさまざまな取り組みが実施されていることがわかりました。けれど、「個人でできることはないのか」と疑問に思った方もいるのではないでしょうか。以下、私たちにできることとして三つ紹介します。

世界の現状を知る

まずは世界の現状を正しく知りましょう。解決に向けて進むためには、まず現在地を把握することが必要です。「他の国や日本でどんな問題があるのか」「どんなことで苦しんでいる人がいるのか」などを信頼性の高いニュースや公的機関の Web サイトといった媒体を活用して正しく理解しましょう。

中でも、日本ユニセフ協会の「SDGs CLUB」がおすすめです。子どもでもわかるようなやさしい言葉で世界の問題を解説しているので、とても勉強になります。

そして、知ったことや感じたことをぜひ誰かに伝えてみましょう。家族や友人に話すことで平和の輪が少しずつ広がります。難しく考えず、昨日見たドラマの話をする感覚で会話するのがおすすめです。

SNS などで発信する方も増えています。あなたが得た情報をシェアすることも楽しんでみてはいかがでしょうか。

違いを受け入れる

世界には様々な人種の人が暮らし多様な文化や価値観があふれています。それぞれ相性や好き嫌いもあるのは当然です。けれども「嫌い」という理由で非難したり、攻撃したりすることは間違っているのではないでしょうか。「そういう考えもあるんだ」と受け入れる力も平和な社会には必要だといえます。国によって異なる働き方を受け入れるのもその一つです。違いを受け入れ、よさを認めることが争いをなくす第一歩だといえます。みんな全く同じよりも、バラエティー豊かな世界の方がおもしろいと感じませんか。

寄付に協力する

支援団体へ寄付することも個人でできる取り組みです。インターネットで簡単にでき、団体によっては普段の生活でためたポイントを使えるところもあります。

日本ユニセフ協会・国連 UNHCR 協会・オレンジリボン運動（児童虐待防止全国ネットワーク）・Yahoo!ネット募金、などなど。

自分ができる行動の積み重ねが大切

毎日多くの悲しいニュースを見る今、「平和とは何か」「自分にできることは」と向き合い、日々の生活に感謝しながら自分ができる行動を積み重ねていくことがより大切になってきています。そのように考えを進めてくると軍事を含めた暴力の問題に行き着いてきます。

西アフリカ・マリで訓練をおこなう国連の平和維持要員（UN Photo/Harandane Dicko）

他者に自分が考えた通りに行動してもらうには、いくつかの方法があります。そのひとつは暴力による方法です。なぐったり、けったりすることから始まり、武器をもっておどし、ついには国どうしで戦争するということにまで発展します。

暴力という手段では持続可能な開発は進みません。世界に住む一人ひとりの行動が持続可能な開発につながるための方法のひとつに、みんなが納得する法律を定めることがあげられます。暴力によって死亡する人や財産を取られる人をなくしていかなくてはなりません。持続可能な開発を進めるために家庭、社会、国家などのいろいろな場面で暴力をなくす必要があります。

そのためには、世界の人々が法律を理解し、法律を守る行動をすることが大切です。この法律は全世界でまったく同じである必要はありません。法律の内容が持続可能な開発を目指していれば、国や地域、場所、住む人々が持つ文化によってちがってもよいのです。

世界全体の人々が納得できる持続可能な開発の方向にある法律とはどのようなものでしょうか。そして、地域による違いのある法律はなぜ必要なのでしょうか。さらに、その法律を

知り、納得し、行動するためには、どのようなことが必要となるのでしょうか。様々な国際機関の活動とその方針、規約にも注意を払いたいと思います。